

専門図書館職員論をとりまとめて —養成・研修とキャリアパスの可能性を中心に—

青柳 英治 (明治大学文学部准教授)

講演概要

日本体育図書館協議会（体図協）は、我が国の体育・スポーツ関係資料を有する機関の集まりであり、特定主題の資料・情報を扱う専門図書館と捉えられる。そのため、本講演では、専門図書館の観点から、大学図書館職員の養成、研修、キャリアパスにつながる話題を提供した。

本講演は次の項目に沿って行った。はじめに、1.専門図書館と大学図書館、2.大学図書館職員の養成、3.大学図書館職員の研修、4.大学図書館職員のキャリアパスの可能性、おわりに である。

1.専門図書館と大学図書館では、まず、専門図書館の定義を提示したうえで、設置母体と主題分野の観点から、専門図書館の現状を説明した。次に、専門図書館と大学図書館を取り巻く近年の状況を、設置母体の環境変化、情報通信技術の進展という2つの観点から概観した。そして、専門図書館、大学図書館ならびに、それぞれの設置母体を取り巻く環境変化に対応していくためには、「人事管理」から「人的資源管理」へと人材の活用のあり方を変えていく必要があることを示した。

2.大学図書館職員の養成では、まず、大学図書館職員の養成にかかわるこれまでの状況を概観した。次に、科学技術・学術審議会の報告書をもとに、大学図書館職員の養成に求められる知識・技術を示し、専門図書館職員も含めて当該分野の先行研究との比較を行なった。そして、実際に大学において開講されている大学図書館職員の養成にかかわる科目を例示し、養成の一端を説明した。

3.大学図書館職員の研修では、まず、図書館員の能力開発の基盤をなす教育訓練の類型を具体例も含めて提示した。次に、文科省の先導的・大学改革推進委託事業として実施された大学図書館に関する報告書をもとに、大学図書館職員の研修の状況について、先に示した大学図書館職員に求められる知識・技術を参照しながら説明した。

4.大学図書館職員のキャリアパスの可能性では、これまで説明した養成と研修を体系化することによって、大学図書館職員のキャリアパスのあり方を示唆した。具体的には、キャリアパスの形成に向けて、①養成・研修体系の整備、②連携強化の必要性、③資格認定制度確立の必要性の3つの観点から述べた。特に、資格の認定は、図書館員が職務遂行能力を保有することの客観的な裏付けとなり、その質を保証することにもつながる。そのため、キャリアパス形成の一環として、大学図書館職員の専門的知識・技術を認定するための資格制度の創設が望まれるとして講演を結んだ。